

平成 20 年 度

事 業 報 告 書

平成21年6月11日

財団法人 国際科学技術財団

1 2008年(第24回)日本国際賞関連事業

(1)第24回日本国際賞週間行事の実施(平成20年4月21日～4月26日)

4月23日、国立劇場において、天皇皇后両陛下御臨席のもと来賓多数を招待して、第24回日本国際賞の授賞式を挙行了。

第24回の受賞者はヴィントン・サーフ博士(アメリカ合衆国)とロバート・カーン博士(アメリカ合衆国)(情報通信の理論と技術分野)、ビクター・マキューズィック博士(アメリカ合衆国)(ゲノム・遺伝医学分野)であった。

この授賞式を中心として4月21日から4月26日までを日本国際賞週間とし、各種行事を実施した。

(2)広報活動(平成20年4月21日～24日)

日本国際賞に関する周知を図るため、日本国際賞週間中に合同記者会見、個別インタビュー等を実施し、報道関係機関に働きかけて積極的な広報活動を行った。

2 2009年(第25回)日本国際賞関連事業

(1)2009年(第25回)日本国際賞受賞者の審査(平成20年5月～11月)

熊谷信昭氏を委員長とする2009年(第25回)日本国際賞審査委員会の委員14名を委嘱し、内外から寄せられた受賞候補者推薦書471件(重複を除くと323件)に対する審査を依頼した。

同委員会は慎重審査の結果、平成20年11月11日、2009年(第25回)日本国際賞受賞候補者として自然と共生する持続可能な技術社会形成分野から1名及び医学・工学の融合における疾患への技術の展開分野から1名の計2名を推挙し、理事会はこれを受けて平成20年11月20日、評議員会の同意を得た上で、デニス・メドウズ博士(アメリカ合衆国)(自然と共生する持続可能な技術社会形成分野)及びデビット・クール博士(アメリカ合衆国)(医学・工学の融合における疾患への技術の展開分野)の2名を2009年(第25回)日本国際賞受賞者と決定した。

(2)2009年(第25回)日本国際賞受賞者決定の記者発表(平成21年1月15日)

2009年(第25回)日本国際賞受賞者発表のためのニュースリリースを作成し、吉川理事長、熊谷審査委員長並びに茅・金澤両部会長の出席のもと、帝国ホテルにおいて国内・国外のプレス関係者に対して受賞者の発表を行った。

また、同時に主要メディアへの配信、財団ホームページでの広報公開など積極的に国内外の広報を行った。

3 2010年(第26回)日本国際賞関連事業

(1)2010年(第26回)日本国際賞授賞対象分野の選定と決定(平成20年7月～10月)

委員長を矢崎義雄氏、副委員長を白井克彦氏とする委員12名から成る分野検討委員会を設置し、4ヶ月に亘り鋭意検討を行い、平成20年11月20日の理事会・評議員会に諮った結果、2010年(第26回)日本国際賞対象分野として、委員会での結論どおり「工業生産・生産技術」と「生物生産・生命環境」の2分野を正式に決定した。

(2)2010年(第26回)日本国際賞授賞対象分野発表(平成20年11月～12月)

2010年(第26回)日本国際賞授賞対象分野について、財団ホームページにおいて公開した。

(3)2010年(第26回)日本国際賞受賞候補者推薦書の送付(平成20年11月)

推薦依頼状12,282通を平成21年2月末日を締切日として内外の科学者(推薦有資格者)に送付した。
なお、推薦の依頼と同時に、国際科学技術財団専門分野表記入依頼を併せて行った。

4 科学技術に関する調査研究

(1)分野別科学者等の調査(平成20年10月)

2010年(第26回)日本国際賞授賞対象2分野に関わる内外の科学技術者リスト等について調査を行った。

(2)国際科学技術財団専門分野表データ整備(平成20年12月～平成21年2月)

2010年(第26回)日本国際賞推薦依頼を行った国内外の推薦依頼者より、国際科学技術財団専門分野表記入回答のあった有識者のデータ整備を行った。

5 科学技術の普及啓発を図るための事業

(1)記念講演会の開催(平成20年4月22日)

第24回受賞者による記念講演会をホテルニューオータニ「鳳凰の間」において開催した。
演題はビクター・マキューズィック博士が“遺伝医学とゲノミクス：この60年をふり返って”、ヴィントン・サーフ博士が“インターネットへの道のり”、ロバート・カーン博士が“ひらめきが宝”であった。

(2)学術懇談会の開催(平成20年4月22日)

第24回受賞者を中心として、それぞれの分野で日本の第一線研究者に出席を依頼し、学術懇談会を開催した。(於：ホテルニューオータニ)

1 情報通信の理論と技術分野

座長：安田 浩 (東京電機大学未来科学部教授)

2 ゲノム・遺伝医学分野

座長：松原 謙一 (株式会社DNAチップ研究所代表取締役社長)

(3)第33回ストックホルム国際青年科学セミナー(SIYSS)への派遣事業(平成20年12月4日～10日)

スウェーデン青年科学者連盟より第33回ストックホルム国際青年科学セミナーへの参加依頼があり、第25回日本国際賞授賞対象分野を専攻する、所属大学の学長からの推薦を受けた学生について選考を行った結果、神戸大学の松下麻衣、及びテキサス大学の萬井知康の2名を選定し、両名を派遣した。

(4)やさしい科学技術セミナーの開催(平成20年5月～平成21年3月)

一般の方を対象とした「やさしい科学技術セミナー」は下記の方々を講師として、9回開催した。

182回 上 真一 広島大学理事・副学長

183回 平井 利博 信州大学繊維学部長

184回	平野 拓一	東京工業大学理工学研究科助教
185回	喜納 克仁	徳島文理大学香川薬学部薬科学科講師
186回	佐藤 隆史	群馬大学生体調節研究所細胞構造分野助教
187回	山下 和彦	東京医療保健大学医療保健学部准教授
188回	猪股 勲	日本バイオプラスチック協会顧問
189回	李 憲俊	衛生微生物研究センター所長
190回	山口 博司	同志社大学理工学部機械システム工学科・工学研究科教授

(5)受賞者及び各種委員との連携を密にし、財団のネットワークづくりを推進した。

6 科学技術研究奨励に関する事業

平成20年度研究助成事業の実施について（平成20年5月～平成20年12月）

研究助成選考委員会委員12名に、応募総数63件に対する選考を依頼した。

その結果、研究助成対象者が11月20日の役員会で決定され、12月9日、ANAインターコンチネンタルホテル東京において贈呈式が行われた。

研究助成対象者

[自然と共生する持続可能な技術社会形成]

片柳 薫子	(独)国際農林水産業研究センター特別派遣研究員
小西 孝史	新潟大学災害復興科学センター特任助教
佐藤 太裕	北海道大学大学院工学研究科助教
高瀬 雅祥	首都大学東京大学院理工学研究科助教
津留 美紀子	(独)海洋研究開発機構極限環境生物圏研究センター技術研究副主事
寺坂 和祥	名古屋市立大学大学院薬学研究科助教
長野 方星	名古屋大学大学院工学研究科講師
平山 朋子	同志社大学理工学部エネルギー機械工学科准教授
村岡 貴子	群馬大学大学院工学研究科助教
矢原 耕史	久留米大学大学院医学研究科大学院生

[医学・工学の融合における疾患への技術の展開]

浅井 大輔	聖マリアンナ医科大学医学部助教
梅津 信二郎	(独)理化学研究所基幹研究所基礎科学特別研究員
大石 基	筑波大学大学院数理物質科学研究科講師
大久保 寛	首都大学東京システムデザイン学部システムデザイン学科助教
金 美海	大阪大学大学院基礎工学研究科JSPS外国人特別研究員
小泉 憲裕	東京大学大学院工学系研究科講師
坂元 尚哉	東北大学大学院工学研究科助教
重永 章	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部(薬学系)助教
原 雄介	早稲田大学先端科学・健康医療融合研究機構講師
二井 信行	東京電機大学フロンティア共同研究センター助教

7 財団の基盤強化に関する事業

- (1) 低金利で収入確保が厳しい状況下、経費支出の効率化を徹底して行った。
- (2) 寄付募集活動を行い、パナソニック(株)他から210万円の寄付受け入れを行った。